



# 自立活動だより

NO. 9  
文責  
自立活動支援センター  
令和3年10月15日発行

季節は、秋本番を迎え、黄金色の稲穂が頭を垂れ、その上を赤とんぼが飛び交う姿が見られます。子どもたちは、学習発表会に向けた練習が始まり、大きな声で劇の練習をする様子が見られます。

さて、「電話リレーサービス」をご存じですか。これは、聴覚や発話に困難のある方と聴覚障がい等以外の者との会話を、通話オペレータが手話・文字と音声を通訳することにより電話で双方向につなぐサービスです。令和3年7月1日から開始されました。この事業は、総務省が管轄し、聴覚障がい者に対する聴覚補償・情報保障の社会的なインフラの整備を目的としたものです。この制度の利用料金は、携帯番号1つにつき、年間7円というほぼ無料に近い料金で利用できます。このサービスを受けるためには、事前申し込みが必要です。

少しずつですが、確実に聴覚障がい者が生活しやすい環境が整ってきています。



## ていねいに、ていねいにとは ～正しい日本語を暗記すること～

聴覚支援学校では、学習発表会で、子どもたちに劇を演じさせることが多いです。これは、正しい日本語を覚えさせる絶好の機会となるからです。子どもたちは、劇の中で一人一人に割り当てられたセリフを一生懸命覚えようとします。正しい日本語を暗記する必要性が生まれるのです。このため、子どもの言葉の育ちを考えて、一人一人に覚えてもらいたい言葉を選びすぐりセリフを考えていきます。劇の中で演じながらそのセリフを話すことで、その言葉の意味を深く理解し、子どもたちの確かな言語力として身につけていきます。

また、宿題にしている音読も教科書に書かれている正しい日本語を毎日、声に出して読むことで、それを暗記できるようになり、子どもたちの確かな言語力となっていきます。

更に、毎日学級で今月の歌として、歌を歌っている学級もあります。歌に使われている歌詞は、言葉を厳選して作られており、美しい日本語となっています。このような美しい日本語に毎日ふれながら歌うことは、日本語の力となっていきます。

このように、正しい日本語を暗記する機会を意図的に多く設けることは、子どもたちの確かな言語力を身につけるために非常に有効です。



## 「ろうを生きる、難聴を生きる」

聴覚障がい者の福祉・生活に関連する様々な情報を紹介する番組です。NHKのEテレで毎週土曜日午後8時45分～9時、再放送が毎週金曜日午後12時45分～1時の15分間の番組です。最近の放送では、ダンスに青春の全てを懸ける聴覚障がいの若者の姿や聴覚障がいの小学生の交通事故をめぐる裁判を紹介する番組が放送されました。ぜひ、お子様と共に視聴していただき、自分たちと同じ障がいの人達の生き様や障がいをめぐる問題などを話し合う機会にしていだければと思います。

